

2回目以降の家庭血圧値は2型糖尿病の心血管イベント新規発症を予測する：KAMOGAWA-HBP study

鷺見 まどか

京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学

【目的】 1機会の家庭血圧（HBP）測定における何回目の測定値が2型糖尿病の心血管イベント新規発症を予測するか検討した。

【方法】 糖尿病専門外来通院中の20歳～90歳の2型糖尿病を有する者を対象とした。2008年～2018年にKAMOGAWA-HBP studyに参加した1526名のうち心血管イベント既往のある者等468名を除外した1058名が最終解析対象となった。HBPは14日間、朝と眠前に各々3回測定し、1回目、2回目、3回目それぞれの14日間の平均値を本研究における1回目、2回目、3回目のHBP値とした。主要評価項目は心血管イベントの新規発症とした。HBP値と心血管イベント新規発症との関係をCox比例ハザードモデルで検討した。

【結果】 中央値7.0年の追跡期間中、117名(11.1%)に心血管イベント新規発症を認めた。朝の1回目、2回目、3回目の収縮期血圧（SBP）値の心血管イベント発症に対する調整ハザード比（HR）（95% CI）はそれぞれ、1.110 (0.993-1.241)、1.129(1.008-1.265)、1.135(1.011-1.275)であった。心血管イベントを脳血管イベントと心イベントに分類して検討したところ、脳血管イベント発症に対する朝の2回目、3回目のSBP値の調整HR（95% CI）はそれぞれ1.229 (1.019-1.482)、1.246 (1.028-1.510)であった。一方、心イベント発症とHBP値には関連を認めなかった。

【結語】 2型糖尿病の心血管イベント、特に脳血管イベント新規発症の予測には、1機会につき最低2回以上のHBP測定が推奨される。